

平成11年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

陵墓調査室では、古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内における陵墓の保全・整備のため緊要な土木工事等を実施するに当たって、施工区域・箇所の変遷・遺物の有無を確認し、工法決定に資するために事前調査・立会調査を行っている。平成11年度も各陵墓監区事務所と協力して次の区域・箇所において調査を行った。

〔事前調査〕

- 1 允恭天皇恵我長野北陵(大阪府藤井寺市国府1丁目)防災整備工事箇所の調査
古市監区、9・10月実施、担当 徳田誠志・近藤時男・熊谷友宏
- 2 磐園陵墓参考地(奈良県大和高田市大字築山)墳塋裾護岸工事区域の調査
畝傍監区、11～1月実施、担当 徳田誠志・清喜裕二・西村寛治・福島由有・本多均・南義孝・古河稔也・北村豊
- 3 清寧天皇河内坂門原陵陪冢い号(大阪府羽曳野市西浦1丁目)境界線保護工事箇所の調査
古市監区、2・3月実施、担当 徳田誠志・浅井良寛・熊谷友宏・近藤時男

〔立会調査〕

- 4 懿徳天皇畝傍山南織沙溪上陵(奈良県橿原市西池尻町)鳥居改築工事箇所の調査
畝傍監区、8月実施、担当 芳村弘士・南義孝・西田哲也・小走泰弘
- 5 清寧天皇河内坂門原陵(大阪府羽曳野市西浦6丁目)見張所改築工事箇所の調査
古市監区、8・9月実施、担当 徳田誠志・近藤時男・熊谷友宏・山本良文・仲田裕行
- 6 淳和天皇大原野西嶺上陵(京都市西京区大原野南春日町)墳塋石積補修その他工事箇所の調査
桃山監区、8・9月実施、担当 山田昭彦・藤原雅人・中川幸信
- 7 安曇陵墓参考地(滋賀県高島郡安曇川町大字田中)正門鉄扉改修工事箇所の調査
月輪監区、9月実施、担当 藤本寛・鎌田幹史・藤井良章
- 8 飯豊天皇埴口丘陵(奈良県北葛城郡新庄町大字北花内)見張所改築工事箇所の調査
畝傍監区、9・10月実施、担当 清喜裕二・北村豊・大林茂男・福島由有
- 9 応神天皇恵我藻伏崗陵(大阪府羽曳野市誉田6丁目)外堤フェンス設置工事箇所の調査
古市監区、10月実施、担当 徳田誠志・浅井良寛・近藤時男
- 10 仲哀天皇恵我長野西陵(大阪府藤井寺市藤井寺4丁目)下水管理設工事箇所の調査
古市監区、10月実施、担当 山本明利・佐々木靖秋
- 11 光明天皇大光明寺陵以下二陵一墓(京都市伏見区桃山町泰長老)鳥居改築工事箇所の調査
桃山監区、11月実施、担当 北村浩二・平木和史

- 12 安康天皇菅原伏見西陵(奈良県奈良市宝来4丁目)墳塋裾護岸その他整備工事区域の調査
畝傍監区、12～3月実施、担当 清喜裕二・山本昌弘・長濱匡洋・西村寛治
- 13 崇神天皇山辺道勾岡上陵(奈良県天理市柳本町)第一号滯外堤内法陥没箇所復旧工事箇所の調査
畝傍監区、1月実施、担当 徳田誠志・村島三彦・池西良和
- 14 円融天皇後村上陵(京都市右京区宇多野福王子町)見張所改築工事箇所の調査
桃山監区、1～3月実施、担当 川下幸誠・坂井洋介
- 15 神武天皇畝傍山東北陵付属地(奈良県橿原市大久保町)水路改修工事箇所の調査
畝傍監区、1～3月実施、担当 清喜裕二・西田哲也・芳村弘士・小走泰弘・南 義孝・徳永真明
- 16 神武天皇畝傍山東北陵付属地(奈良県橿原市大久保町)外構柵整備工事箇所の調査
畝傍監区、1・2月実施、担当 清喜裕二・芳村弘士・小走泰弘・南 義孝・徳永真明
- 17 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵(堺市大仙町)第三濠へドロ浚渫工事箇所の調査
畝傍監区、1・2月実施、担当 小走直敬・小谷武史
- 18 允恭天皇恵我長野北陵(大阪府藤井寺市国府1丁目)防災整備工事箇所の調査
古市監区、1～3月実施、担当 徳田誠志・浅井良寛・近藤時男
- 19 聖徳太子磯長墓(大阪府南河内郡太子町大字太子 叡福寺内)内「結界石」緊急保存処理に伴う調査
古市監区、2・3月実施、担当 北條朝彦・多田京介・安岡徹悦
- 20 仁賢天皇埴生坂本陵(大阪府藤井寺市青山3丁目)参道北側境界線保護工事箇所の調査
古市監区、2・3月実施、担当 山本明利・佐々木靖秋
- 21 土御門天皇金原陵(京都府長岡京市金ヶ原金原寺)鳥居改築工事箇所の調査
桃山監区、2・3月実施、担当 山田昭彦・藤原雅人・中川幸信
- 22 垂仁天皇菅原伏見東陵(奈良県奈良市尼辻西町)危険防止柵設置工事箇所の調査
畝傍監区、2・3月実施、担当 西村寛治・米谷友朋
- 23 応神天皇恵我藻伏岡陵(大阪府羽曳野市誉田6丁目)汚水柵取設工事箇所の調査
古市監区、3月実施、担当 熊谷友宏・仲田裕行
- 24 飯豊天皇埴口丘陵(奈良県北葛城郡新庄町大字北花内)外周侵入防止柵設置工事に伴う調査
畝傍監区、3月実施、担当 福島由有・大林茂男・北村 豊
- 25 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵(堺市大仙町)污水管改修工事箇所の調査
古市監区、3月実施、担当 小走直敬・小谷武史・川添 悟

事前調査の3件については、報文を後掲する。

立会調査のうち、見張所改築工事に伴う5・8、陵墓地内石造物緊急保存処理事業に伴う19、特別営繕工事に伴う12・18、監区職員だけでは立会調査が困難な9・13・15・16は当調査室員も参加したもので、9・13・15を除き、報文を後掲する。

以上のほかの調査結果は、以下の通りで、10・19以外は遺構・遺物は認められず、また、10・19は遺物が出土したものの、保存を要する遺構はなかったので、いずれも予定通り施工した。

- 4 在来鳥居基礎の埋戻土及び拝所整備時の盛土の下は、均質な粘質土層であるが、締まりがなく、地山ではないと判断した。
- 6 墳塋裾の石積補修3箇所(総延長35m)は、裏込部分、石積の際の盛土だけを掘削した。拝所石積積替箇所L約14mは、一部にバイラン土混りの地山かと疑われる層を認めたものの、大半は盛土からなっていた。
- 7 掘削範囲は、軟らかい黒色土層であって、明確には分層できないが、大部分は在来門扉取設時の基礎埋戻土、その周囲は、上部が小土堤の盛土、下部が旧表土と思われる。
- 9 掘削は、ビニール等を含む黒色砂質土の表土層内にとどまった。
- 10 掘削は、本来の外堤上の盛土及び小土堤の盛土内にとどまった。埴輪片7点が出土。
- 11 現地表下0.8mまでは攪乱層又は盛土層、それ以下は堅く締まった地山(あるいは整地層か)と推測された。
- 13 掘削は、入水路(石組暗渠)施工後に埋め戻した盛土内にとどまった。
- 14 掘削した大半は人為的な盛土と思われた。
- 15 地表下約1mは新しい盛土で、この下に旧水田面が確認され、一部地山らしい土層もある。
- 17 ヘドロを吸引し、スクリーニングにかけた残存物中に埴輪片等は認められなかった。
- 19 3カ年計画の初年度にあたり、結界石周囲の精細な測量、拝所から向かって霊屋左側30基の保存処理、同所の事前調査と抜取時の立会調査を行った。

表土(黒色腐植土)の下は、遺物や礫石を多く含む暗黄褐色砂質土で、盛土又は墳頂からの流土。その下に微少な凝灰岩を含んだ堅く締まった明灰褐色砂質土があって本来の墳丘かと疑われた。結界石は、この土層を若干掘込み、根入されていたが、明確な掘方・台石など特別な施設はなかった。カワラケ約70片、燻瓦約20片、布目瓦5片、陶磁器2片、小型の青銅製仏像1点、刀剣状金属製品1点、古銭(寛永通宝・永楽通宝)6点、一石五輪塔5片が出土した。

詳細は、当所の保存処理事業が完了した後にまとめて報告したい。

- 20 掘削範囲は、大部分が参道整備に伴う盛土と考えられる。羽曳野丘陵裾に当たる西端部では、この盛土の下に地山らしい土層が認められた。
- 21 在来鳥居の攪乱土層とその周囲に拝所整備に伴う盛土と思われる土層が認められた。
- 22 表土層の下は現小土堤の盛土である礫混じり砂質土層と黄色粘質土層。
- 23 上部2層は表土と近年の盛土。その下3層から遺構・遺物は検出されなかった。
- 24 掘削範囲は、現外堤を構築した盛土。
- 25 掘削範囲は、現見張所改築時等の埋戻土と考えられる。

平成11年度には、次の調査も実施した。

〔墳丘調査〕

一昨年度に引続き、一條天皇皇后定子鳥戸野陵(京都市東山区今熊野泉山町)の地形測量を平成

12年3月21～27日に実施した。本12年度も継続して調査する予定である。

〔石塔等の写真測量〕

後陽成天皇灰塚 九重塔(京都市東山区今熊野泉山町)の現状を精細な測量図に記録した。

〔出土品の鑑定〕

新藤康夫氏(八王子市教育委員会事務局)に武蔵陵墓地(八王子市長房町)の出土品、寺沢薫氏(奈良県立橿原考古学研究所)に大市墓(奈良県桜井市箸中)の出土品の鑑定を依頼し、それぞれ平成11年8月18日、8月30日に実施した。その結果は、本誌第51号に報告した通りである。

磐園陵墓参考地墳塋裾護岸工事区域の調査

はじめに

磐園陵墓参考地は、奈良県大和高田市大字築山の丘陵に所在する墳丘長約210mの前方後円墳である。奈良盆地西部の馬見丘陵に展開する馬見古墳群の南端に、主軸を東西に向けて位置する。本陵墓参考地の墳丘裾部も、他の濠水のある陵墓と同様に経年の波浪による浸食と崩落が進み、崖状ないし急斜面になってきたため、墳丘裾の布団籠による護岸工事が計画された。これに先だつて、施工予定地における遺構・遺物の存否とその実態、及び工法の検討に必要な所見を得ることを目的として、墳丘裾部に17箇所のトレンチを設定して発掘調査を実施した。

調査は平成11年11月4日から着手し、同年12月4日に一旦終了した。その間、陵墓管理委員である網干善教・松井宗幸両氏にはそれぞれ考古学・土木工学の立場から現地を検分いただき、ご指導を賜った。その際の指摘により、平成12年1月12日から19日に追加調査を行った。なお、各トレンチにおいて検出した葺石については奥田 尚氏に鑑定いただいた。その結果については後掲する。

また、出土遺物のうち中近世の遺物については、大和郡山市教育委員会山川 均氏よりご教示賜った。冒頭に記して感謝申し上げる次第である。

1 トレンチの設定方法と基本的な層序

トレンチの配置は第1図のとおりである。本陵墓参考地では、本誌49号に報告したとおり、平成8年度に、墳丘北側を中心にトレンチを設定、調査している。そのため、本調査ではその際の調査範囲を除いた区域、すなわち後円部北西部付近から墳丘南側を巡り、前方部正面中央付近までの区域に計17箇所のトレンチを設定した。各トレンチは長さ5m×幅2mまたは長さ5m×幅5mを基本としたが、調査状況に応じて適宜変更して調査を行った。

調査した各トレンチにおける基本的層序は次のとおりである。

I層 表土。黒褐色の腐植土。

II層 浚渫土による盛土。多くのトレンチで表土の直下に認められる粘質土層。灰褐色の粘土ブロックを多く含み、濠の浚渫土を盛り上げたものと考えられる。